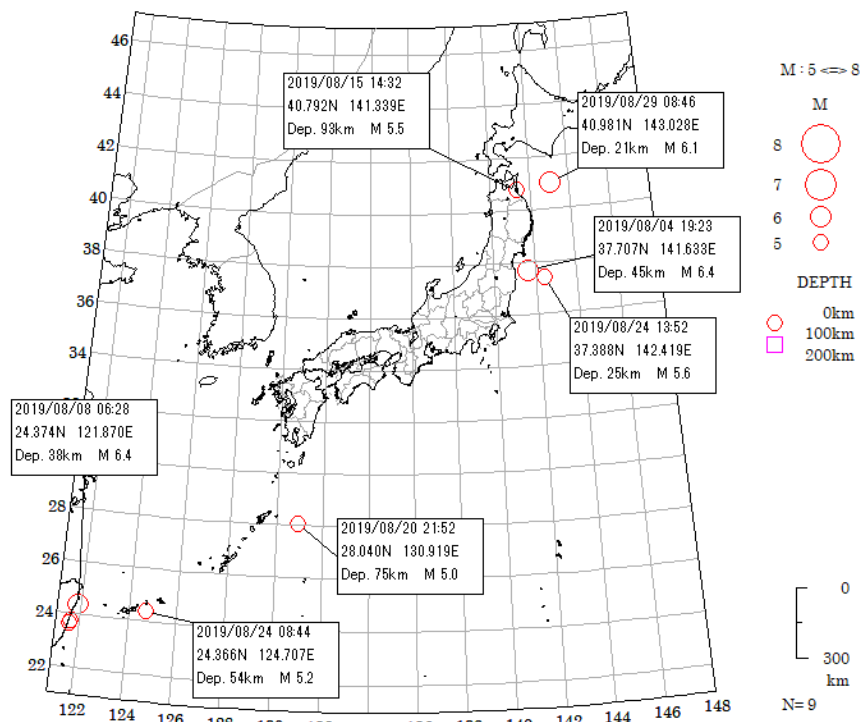




2019年8月の地震活動概観

8月には日本およびその周辺海域でマグニチュード5を超える地震は7月と同じく9個発生しました。目立った地震としては、8月4日に宮城・福島県沖で発生したマグニチュード6.4の地震と、8月29日に青森県東方沖で発生したマグニチュード6.1の地震です。

2019 8/1 0:0 -- 2019 8/31 23:59

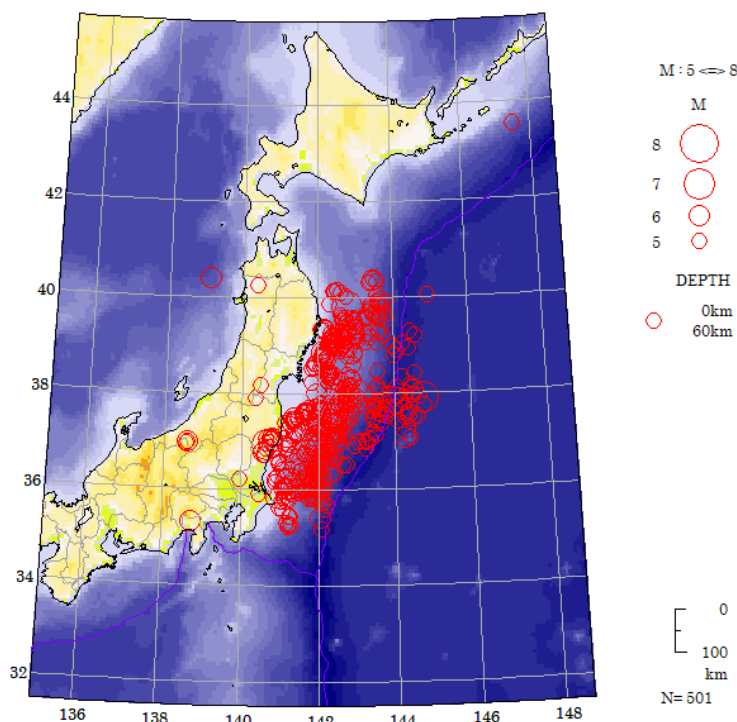


4日の宮城・福島県沖で発生した地震は東日本大震災の余震ですが、29日の地震は東日本大震災では破壊しなかった地域で発生しており、厳密な意味では余震ではありません。

上述のように青森県東方沖は東日本大震災では割れ残っており、将来の大地震発生が想定されている地域です。地球表面はつながっていますから、隣の岩手県沖まで破壊して、大きく岩盤がずれたので、その隣の地域は逆に歪が増加したと考えられているのです。同様に南側の房総半島沖も大地震発生の可能性が相対的に高まった地域といえるのです。

右の図は東日本大震災から1ヶ月後の4月11日までに発生したマグニチュード5以上の地震の分布です。

2011 3/11 0:0 -- 2011 4/11 23:59





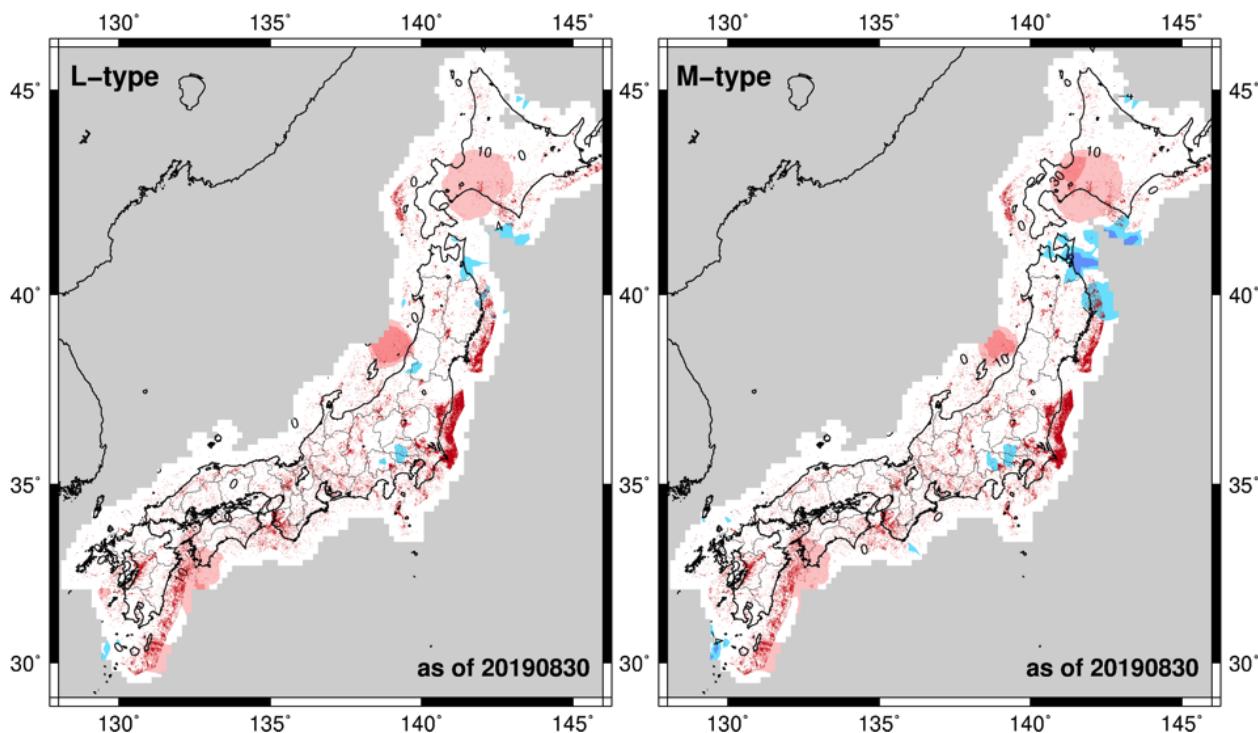
この図から地震○が集中しているのが、岩手県沖から茨城県沖である事がわかります。この領域を地震学では“余震域”と言っており、本震の時に破壊した領域と考えられています、その意味で8月29日の青森県東方沖の地震は余震というより、余震域と隣接する地域で発生した地震と考えられるのです。

東北沖でこれだけの地震活動(一ヶ月でマグニチュード6以上の地震が2個発生した)があったのは、すこし東北沖の状況が変化してきたという事が考えられます。

日本列島陸域の地下天気図®

7月22日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は8月30日時点の L タイプと M タイプの2種類の地下天気図をお示しします。7月22日のニュースレターで観察されていた秋田県沖の静穏化が消えています、これは海域が中心の異常であり、静穏化の精度は内陸地域に比べて少し低いと考えています。それ以外では、M タイプで青森県周辺での異常が観察されるようになったのが一番大きな変化です。

また北部九州から山口県にかけての地域は静穏化が終了しており、現時点で最も地震発生可能性が高い地域と考えています。



6月18日に発生した山形県沖の地震に関連する地震活動活性化がよく見えています。まだ日向灘における地震活動も活発である事がわかります。北海道の活性化は今年の胆振東部地震によるものです。DuMA では地震活動静穏化に一番注目していますが、地震活動が活発化している場所でも大きな地震が発生する事がありますので(地震学の最も基本的な地震発生数と発生するマグニチュードの関係というのがあり、発生地震数が多くなると大きなマグニチュードの地震が発生する可能性が高まるのです)、自分の住んでいる所が静穏化していないからといって油断する事の無いようお願い致します。